

昨年9月にドコモショップ南浦和店1階にオープンしたアイメガネ南浦和店で、スマートグラス「MiRZA（ミルザ）」の販売を始めた。スマートグラスとは言わば「眼鏡の形をしたスマートフォン」。目の前のレンズの先に映像などのコンテンツが現れる。アイジャパンはMiRZAに装着する視力補正用度付きインサートレンズの製作やコンサルティング面で開発に与る。MiRZAは法人向けが主になる商品だが、今後一般向けのバージョンがリリースされれば大きな関心と呼ぶに違いない。

DXの活用でビジネスの幅を着実に広げている。眼鏡をかけて鏡の前に立つと、AIが“似



アイジャパン(株)

代表取締役兼社長執行役員

澤田 泰行氏

合い度”を診断する「AIフィッティングミラー」も好評で、昨年3月に全店41店舗への導入を完了した。AIによる診断技術はサブスク化にも成功、香川、福井、青森の眼鏡店で採用されたのに続き、昨年は大阪の大手チェーンとの

宮」は昨年12月で2周年を迎えた。「これまでアイメガネが取り込めていなかった20代、30代、40代のお客様が想定以上に多い」。2年で10本以上購入する人もいるほどのリピート率の高さと次の来店までの期間が短いのが特長という。

手作業の多い人が遠くを見るための眼鏡を使えば目は疲れるばかり。疲れ目の要因となるピント調節する力、その元となる毛様体筋の緊張の程度を他覚的に測定し見える化した調節力解析装置を全店舗に導入し、その人に合った眼鏡作りにも一層注力する。

技術とDX、対応力磨く

契約にこぎ着けた。同技術はさらに磨きをかけ、POS（販売時点情報管理）システムに蓄積したデータと合わせることで、売れ筋商品の開発にも役立てる考えだ。

新ブランド店舗の「スタイルクローゼット大

国家検定資格の眼鏡作製技能士は店員の約4割が取得済みで「技術の高さを売りにできる素地が固まりつつある」。1、2年後には有資格者の比率5割を達成するのが目標だ。眼鏡はか

「よく見える」ための眼鏡作製技能士、「疲れない」ための調節力解析装置、そして「似合う」ためのAI診断技術。「個々のニーズに対応するソリューションをしっかりと充実させることで、新しい年は目指してきた中間地点をクリアできるので」。静かな自信は確かな努力の積み重ねに裏打ちされている。

アイジャパン株式会社
〒331-8760
さいたま市北区宮原町1-505-1
TEL 048-660-1111
FAX 048-660-1966
<https://www.aijapan-net.co.jp/>